

区政のここをきく

一般質問要旨



世界の玄関口「日暮里」と訪日外国人向けの観光情報の提供を問う

小坂眞三（自民党）

世界の玄関口「日暮里」を問う

問東京オリンピック・パラリンピックに向けて、道路や競技場などの整備が進みだした。成田空港と36分で結ばれている日暮里駅は、世界の玄関口になると考える。地域の賑わいを創出するためには、日暮里駅の南口に接続する紅葉橋のバリアフリー化が大きな要因のひとつになると考えるが、この事業はどのように進んでいるのか。また、耐震性能を考えると架け替える必要があるのではないかと。昨年は、橋の健全度調査と耐震診断を実施するとのことだったが、現在の進捗状況を問う。

答紅葉橋は、日暮里駅周辺の賑わいづくりに欠かせない重要な施設である。架設から85年以上が経過し、老朽化対策やバリアフリー化への対応が必要であると、区も認識している。昨年度は、補修工事を実施すると共に、橋の健全度調査と耐震診断を実施し、床板や高欄等の部材の取り替えが必要との結果が出た。今年度も引き続き、JR東日本と共同で橋の耐震補強もしくは架け替えの検討、及びバリアフリー化の可能性調査を実施しており、今後は、共通認識を持てるよう協議を重ね、安全・安心の橋の整備に取り組む。

問日暮里地域の広域的な拠点である西日暮里公園は、西日暮里駅のすぐそばにある。「谷根千」を含めた歴史や文化を訪ねる街歩きの拠点として、もっと活用されるべきと考える。公園利用の活性化には、アクセスを良くすることが大事であり、道灌山通りにかかる歩道橋にエレベーターを併設するのはどうか。併せて、西日暮里公園を地域の観光の拠点とするため、公園内に茶店を設置することを提案するが、区の見解を問う。

答歩道橋へのエレベーターの設置は、地域の利便性の向上や、公園利用の安全・安心に寄与するものと、区も認識しているため、東京都に設置を要請していく。また、公園内への茶店の設置は、貴重な提案として受け止め、今後、関係部署と連携し、茶店の設置も含め、この地域の観光振興や公園の利用者増に繋がる公園整備の内容を検討していく。

訪日外国人向けの観光情報の提供を問う

問外国人観光客の増加に伴い、更に多くの旅行者が日暮里を訪れることになる。この人たちに区が持つ魅力を直接伝えるため、まずは日暮里駅前イベント広場や繊維街の方に足を向けさせてはどうか。東京オリンピック・パラリンピックの開催を控えた今こそ、日暮里駅への観光案内所の設置を実現するべきと考えるが、区の見解を問う。

答外国人旅行者が右肩上がりに増加しているこのタイミングを更なるチャンスとして捉え、谷根千側から駅前イベント広場方面への有機的な人の流れを作る等、日暮里駅が単なる乗換駅ではなく、楽しめる街へ誘う駅となるよう、積極的な取り組みを強めていきたいと考える。観光案内所の設置は、日暮里駅の改良工事に関する一定の方向性が示されたことから、平成28年度中の日暮里駅構内への設置に向けて、鋭意働きかけを行っていく。

その他の質問項目

- 全国連携プロジェクトについて
- 学校教育のあり方について
- 子どもの貧困・格差是正対策の推進について



▲紅葉橋



地域包括ケアシステムと
受動喫煙防止対策を問う

吉田詠子（公明党）

地域包括ケアシステムを問う

問地域包括ケアシステムの制度は、分かりにくく、まだまだ区民には情報が届いていない。そこで、区民に理解が深まるような総合的な広報として、高齢者家族に対して、荒川版の手引きを発行してはどうか。区の見解を問う。

答区としても、これまで以上に高齢者の視点に立った分かりやすさに配慮したパンフレット等の発行を検討し、周知方法も工夫する。

問介護予防の体操教室への男性の参加率が低い。より男性が参加しやすい介護予防事業の開発や工夫を行っていき、参加者の増加を図っていくべきと考えるが、区の見解を問う。

答現在、南千住と町屋で男性だけのころばん体操教室が開催されている。今後は、トレーニング機器を活用した事業等の展開も検討しており、男性のより一層の参加拡大を目指す。

問町会や商店街等、様々な立場の方に認知症サポーターになってもらうことで、地域での理解促進、見守り体制ができる。さらに、サポーター養成講座受講者に対し、定期的に講習会等を開催し、もう一段意識が高まる取り組みを行ってはどうか。

答街中で見守り等が増えるよう、サポーター養成講座を実施すると共に、さらに理解を深める講演会等を開催する等、サポーターの活動を促進する。

受動喫煙防止対策を問う

問受動喫煙を防ぐことは、社会や行政の大きな課題である。子ども達が遊ぶ公園の喫煙、歩きタバコの対策をどう考えるか。また、飲食店の禁煙、分煙対策等の強化をすべきと考えるがどうか。

答公園・児童遊園の受動喫煙防止対策をさらに進めていく。歩きタバコ対策は、区内全域で喫煙を禁止しており、重要であると認識している。飲食店には、受動喫煙防止のための指導と「受動喫煙防止推進ステッカー」の配付と活用を推進する。

問「受動喫煙防止対策助成金」制度が設置された。事業者はこの制度の活用を周知し、区として積極的に働きかけるよう要望する。

答区報等での周知や商工会議所等の団体を通じ、働きかけを行う等、各部署で積極的に取り組む。

問タバコの喫煙、受動喫煙の健康被害について、教育現場で教えていくことは将来、自身の喫煙を避けるためにも必要と考えるが、区の見解を問う。

答学校現場で禁煙教育を行うことは、重要なことと認識している。学習指導要領により健康教育を行い、受動喫煙には図表等を活用し指導している。

その他の質問項目

- 児童虐待防止対策について
- 子どもに伝統文化の継承について
- 町屋駅周辺の道路整備について



▲路上喫煙禁止看板



ひきこもり対策と中央図書館の準備、各図書館の充実を問う

斉藤邦子（共産党）

ひきこもり対策を問う

問調査をした自治体では、支援体制確立が喫緊の課題であることが明確になった。中学卒業後は状況が把握できない。区内実態調査を行い、ひきこもり対策を区の重点施策にすることを求める。

答ひきこもりの実態調査は、調査によって出現率に幅が出て、正確な実態の把握が難しい状況にあるものと認識している。

問今、若者は競争的な教育や不安定雇用の拡大などで社会に出ていけない。どの家庭でも起こりうる。長い地道な活動を続けている団体の経験にも

学び、ひきこもり、生きづらさを抱える若者の総合支援を具体化すること。

答区は「ひきこもり家族教室」、「ひきこもり心理相談」を実施しており、ひきこもり状態を脱した事例等、相談の成果が現れている。また、自主グループのサポートや講演会の実施等、様々な支援を行っている。今後も対策に取り組む。

中央図書館の準備と各図書館の充実を問う

問荒川中央図書館が2017年春にはオープンすることになる。改めて、中央図書館としてのコンセプト、選書、配架、貸出システム等を専任チームで検討し、その内容を区議会、区民にも周知して意見を聞きながら準備を進めること。

答ゆいの森あらかわの開設準備にあたっては、専任の司書を配置した準備室を設置し、図書館課と連携を図りながら作業を進めている。運営方法等は、意見を十分に踏まえ、条例等で定める。

問各館は特色のある蔵書をすすめ、地域に根ざした図書館として親しまれている。今後も培った図書サービスの充実を図ることを求める。

答各地域の図書館が、知的活動の拠点として、これまでも増して親しまれるよう、更に魅力ある図書館づくりに努める。

問より良い図書館の3本柱の1つは経験豊かな図書館員である。図書館サービス向上のために、非常勤職員の期末手当の創設等、処遇改善を行うことを求める。

答区では、職層制の導入や研修制度の充実、休暇制度の拡充等、他の地方公共団体に先駆けて、非常勤職員の処遇改善に鋭意取り組んできた。今後も引き続き努めていく。



◀南千住図書館

その他の質問項目

○アベノミクスで暮らしは悪くなるばかりであり、暮らし命第一の予算編成にすること

- 介護保険の負担増実態把握と施設整備促進
- 保育園の待機児対策とより良い保育について
- 来年1月からのマイナンバーカード作成の誘導策を行わないこと
- 補助90号線拡幅について



区内のにぎわい創出と住工共生の街づくりを問う
竹内明浩（民主・市民）

区内のにぎわい創出を問う

問「あらかわハロウィン」開催にあたり、商店等の活性化を図るために、あらかわ遊園で地元商店による物販等も積極的に行い、改めて地域全体で盛り上げることが必要だと考える。また、今後はこのような取り組みを区内全域に、にぎわいづくりを広げていくべきと考えるが、区の見解を問う。

答にぎわいコーディネータによるアドバイス等の支援を行うとともに、あらかわ遊園での地元商店等による物販も調整していく。今後、区内各地域でも、地元の活力と全国連携プロジェクトが上手にマッチングした事業を積極的に進めていく。



◀あらかわハロウィン

住工共生の街づくりを問う

問荒川区はモノづくりの街として発展してきた。しかし、後から移り住んだ住民から従前の工場に対し、苦情を申し立てるといった問題が発生している。モノづくりの街、製造業を守るためにも、居住環境と操業環境が調和した、住工共生の街づくりを目指すべきと考えるがどうか。

答住環境条例により、開発事業者に対し、工場等への配慮について、協議の上、建築するよう指導を行っている。新たな住民に対し、有効な方法を

検討し、住工の適切な共存を目指していく。

その他の質問項目

○ドッグラン施設について



中国大連市との深い友好交流を。消費税増税は荒川区の地域経済にマイナス。根本対策を国に求めよ

斉藤裕子 (元気クラブ)

友好都市 10 年。歴史経過をふまえ深く広い交流を

問日清戦争で日本が占領し、日露戦争で最大の激戦地となった旅順では、日本人、ロシア人、中国人の多くの血が流された。国の違いを超えた慰霊と鎮魂の地だ。区はどのように認識するか。

答荒川区と大連市中山区の両区は区民ツアー、小学生や職員などの交流を重ねてきた。日中間には不幸な歴史もあったが、友好交流の扉が開かれた。10周年を機に、歴史、文化、民族的つながりを学び合い、基礎自治体同士ならでの交流や住民相互の草の根の交流が更に深まるよう努める。

軽減税率ではなく、免税点引上げ、簡易課税復活、輸出ゼロ税率廃止などの根本対策を国に求めよ

問軽減税率導入では物価は下がらず、ドイツでは高所得者に恩恵が大きく、低所得者対策にはならないとの調査結果が出た。対象品目をめぐり特定業界との癒着を生むとも言われる。納税義務者として増税で苦境に立つ区内事業者のため、区として国に根本的な対策を求めてもらいたい。

答消費税の制度設計は国の責任である。区では、独自の景況調査等で経営状況をきめ細かく把握し、実態を踏まえ、必要性があり、公平かつ合理性のある事項については、国や都に申し入れていく。



◀ジョイフル三ノ輪

その他の質問項目

○女子医大病院移転。医療面の影響を都に伝えよ



コミュニティカレッジの今後と中小企業の販路開拓支援を問う

明戸真弓美 (自民党)

コミュニティカレッジの今後を問う

問荒川コミュニティカレッジは、開校し5年が経過した。志を同じくする仲間での合意形成し、実践にたどり着くには深い議論が必要になる。そこで、サンパール荒川のオープンスペースに、机と椅子を用意する等、身近な場所に地域活動をするための拠点の整備を提案するが、区の見解を問う。

答受講生や修了生等が気軽に立ち寄れるサロンのような活動拠点の整備については、サンパール荒川のコミュニティカレッジフロアのスペースの活用等、検討を進める。

問シニア世代や若い世代にアピールできる、5年間のコミュニティカレッジの活動成果をまとめた冊子の作成を提案するが、区の見解を問う。

答4月には、5周年記念講演会を予定しており、これまでの荒川コミュニティカレッジの軌跡をまとめた冊子も作成する予定である。今後とも、学習成果の積極的なPRを行う。

問町会・自治会、NPO、ボランティア団体等の団体とコミュニティカレッジ生や卒業生が出会い、参加意識、「共通の課題解決」について区民自らで話し合う場が必要だと考える。まちづくりシンポジウムを協働戦略として、開催してはどうか。

答テーマや実施時期の決定段階から受講生と相談し、まちづくりシンポジウムの検討を進める。

中小企業の販路開拓支援を問う

問製造業においては、企業間取引(B to B)による販路開拓への取り組みが重要になってくる。このため、これに対する支援強化を図っていくべきと考えるが、区の見解を問う。

答荒川区のモノづくりのB to Bを強化していくべきとの指摘はその通りだと考える。製造業の企業間取引を一層支援するため、国内外から受発注

や商談を目的に多数の企業が来場する大規模な展示会への共同出展等を検討している。

問近年の産業展は、消費者取引にシフトされつつあるように感じる。今後の産業展のあり方をどのような方向に考えているのか、区の見解を問う。

答産業展については、あり方を検討する必要があると考える。区としては、「モノづくりのまちあらかわ」を区内外に更に強く発信し、全力を挙げて取り組んでいく。そのためには、経済産業省をはじめ、様々な機関と連携をしていきたいと考える。

問大企業と違い、小規模事業者はマーケティング調査や商品開発に多くの資金を割くことができないのが現状である。日常の生活や体験からの発想による消費者の「未来の商品」アイデア募集をしてはどうか。区の見解を問う。

答区では、先進的、個性的な東京の消費者ニーズに応える様々な生活提案型の商品開発やその販路開拓に取り組む「TASKプロジェクト」を近隣区と共同で推進している。事業者が消費者の発想を生かした新商品開発の取り組みについて、引き続き、「TASKプロジェクト」をはじめ、国や都と連携した支援策の活用等を図る。

その他の質問項目

- 地域力の更なる向上について
- 中学校防災部の今後の方向性について
- 隅田川の活用



▲コミュニティカレッジ授業風景



切れ目ない子育て支援策と高齢者・障がい者対策を問う

松田智子（公明党）

切れ目ない子育て支援策を問う

問不妊治療は精神的にもストレスを受けるが、その上に費用が掛かるので、断念する人が多い。夫婦の不妊治療費及び男性不妊検査費の区独自の助成策について、区の見解を問う。

答区は、「母子保健計画」で、特定不妊治療に対する区独自の助成制度の検討について位置づけている。現在、各区の状況調査等を進めており、その結果等を踏まえて、更なる検討を行っていく。

問里帰り出産ができない方が増え、産後、初めての経験である子育てについて不安が大きいという傾向がある。区として産後ケアについて更なる支援を求める。また、保健所に「母乳・沐浴相談コーナー」を置き、母乳相談事業の実施を求める。

答産後ケアを区内で実施するためには、宿泊施設と医療従事者の確保という課題があるので、民間施設との連携等も含めて実施の可能性を検討する。母乳相談事業は、育児、子育て相談事業と含めて関係機関と連携し、今後も充実していく。

問安心して出産や子育てが出来るように、タイムリーな情報をメールで配信する、子育て応援メール「絆メール」の配信を求めるがどうか。

答区として、「絆メール」や既存の情報提供の方法も含めて効果的な情報提供について、今後、検討していく。

高齢者・障がい者対策を問う

問高齢者の方の尊厳を保ち、日常生活でありうる段差等をあえて設ける「バリアアリー」の介護施設がマスコミで紹介されている。10年以上積み重ねてきた「バリアアリー」を区の介護予防事業としてプログラムの中に取り入れてみてはどうか。また、曜日や時間等を区切り、高齢者や障がい者専用のプール利用整備を提案するがどうか。

答区として、生活できる能力を可能な限り引き出し、介護予防事業に取り組む。今後の施設整備に

は、紹介された施設の取組等も参考にする。プールの活用は安全確保、施設整備といった課題もあることから、関係所管と連携して検討を進める。

問荒川区バリアフリー基本構想・4地区別の現状と今後の展開等を問う。また、整備が進んでいる道路はもちろん、比較的狭い生活道路の段差や点字ブロックの整備等の早期取り組みを求める。

答各重点整備地区における事業者の特定事業計画を短期、中期、長期的な視点で進捗確認を行い、事業推進に必要な助言等も行っており、今後もバリアフリー化を推進していく。また、今年度、区管理の歩道を全て調査し、今後、その路線にふさわしい整備を計画的に実施することを目指す。

その他の質問項目

○環境にやさしい街づくり



▲点字ブロック

意見書提出

11月会議では意見書2件を可決しました。

障がい者グループホーム設置推進に関する意見書

(内閣総理大臣・厚生労働大臣・東京都知事あて)

杭打ちデータ偽装の全容解明と安全確保へ検査体制の整備等を求める意見書

(内閣総理大臣・国土交通大臣あて)

採択した請願・陳情

趣旨採択

- ・2015年度インフルエンザHAワクチン供給に係る対応に関する陳情
- ・都市計画道路・補助92号線(荒川区西日暮里4丁目地区)見直しに関する陳情

委員会活動の報告

議会運営委員会

志村 博司 委員長

11月9日

◆平成27年度荒川区議会定例会・11月会議について

- ①11月会議・初日の開会日について
- ②提出予定案件について
- ③11月会議の会議期間について 等

11月26日

◆平成27年度荒川区議会定例会・11月会議について

- ①追加議案の提出について
- ②陳情書の受理について
- ③11月会議の会議期間について 等

12月9日

◆平成27年度荒川区議会定例会・11月会議の最終日について

- ①意見書について
- ②陳情書の受理について
- ③議事日程について 等

ほか

1月12日

◆平成27年度荒川区議会定例会・1月緊急会議について

- ①1月緊急会議の開会について
- ②1月緊急会議・初日の開会日について 等

ほか

1月14日

◆平成27年度荒川区議会定例会・1月緊急会議について

- ①1月緊急会議の会議期間について
- ②決議について 等



▲11月会議の風景